

目次

- (一面)
  - ・第75回人権週間特集
    - 街頭啓発活動・武庫地区人権問題講演会 事務局
    - ・各種団体別合同研修会を開催しました。 事務局
    - 第1回12月12日 第2回2月13日
    - ・視点「ありがとうをみつげよう」
    - 尼崎市立武庫南小学校 校長 大龍 正幸
- (二面)
  - ・大きな安心につながります。様々な行動があります。
    - 尼崎市立武庫小学校 校長 河合 康一
  - ・武庫会の活動紹介 武庫地域振興センター 所長 木崎 貴則
  - ・子どもたちに夢を!挑戦を!!『チャレンジャーズ』のアメフト教室 尼崎市立武庫の里小学校 育友会

# 武庫しののめ

武庫地区人権啓発推進委員会  
 尼崎市南武庫之荘 11丁目6番15号  
 尼崎市立地域総合センター南武庫之荘  
 電話・FAX 06-6438-5875

2023(令和5)年12月4日~10日

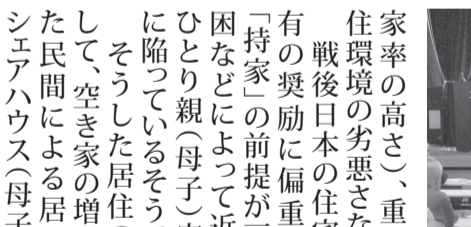
## 「人権文化のいきづくまち」を目指し、 第75回人権週間に伴う様々な活動をおこないました

2023(令和5)年は1948(昭和23)年国連総会での世界人権宣言採択から75周年になります。世界人権宣言が採択された12月10日を記念して制定されたのが世界人権デー。その世界人権デーを最終日とする12月4日から10日までの人権週間には、毎年、全国各地で啓発活動が展開されています。武庫地区でも「人権文化のいきづくまち」を目指して、啓発活動を次のおり実施しました。



◆街頭啓発活動(人権啓発チラシ・グッズの配布、パネルの展示)  
 ・日程 12月1日(金)  
 ・場所 阪急武庫之荘駅周辺 (参加者36人)

◆武庫地区人権問題講演会  
 ・日程 12月4日(月)  
 ・場所 武庫西生涯学習プラザ3階ホール  
 ・講師 葛西 リサ さん(追手門学院大学 地域創造学部 准教授)  
 ・演題 子どもの居住の貧困とは何かについて (参加者38人)



◆武庫啓発パネルの展示、のぼり・横断幕の掲示  
 ・パネル展示  
 ・日程 11月27日(月)~12月8日(金)  
 ・場所 武庫東生涯学習プラザ、女性センター・テレビエ

◆武庫地区人権啓発推進委員会 各種団体別合同研修会(第1回)  
 2023(令和5)年12月12日(火) 武庫西生涯学習プラザ1階ホール  
 演題は「地域共生社会と聴覚障がいについて」で、南武庫之荘中学校と兵庫県立こばと聴覚特別支援学校から、学校での取り組みなどについて紹介がありました。

## 武庫地区人権啓発推進委員会 各種団体別合同研修会(第1回・第2回)を開催しました

◆武庫地区人権啓発推進委員会 各種団体別合同研修会(第1回)  
 2023(令和5)年12月12日(火) 武庫西生涯学習プラザ1階ホール

後半は、兵庫県立こばと聴覚特別支援学校について、学校長の平野明美さんより紹介していただきました。兵庫県立こばと聴覚特別支援学校は全国唯一の保育相談部と幼稚部(1~5歳児)のみの学校です。

◆武庫地区人権啓発推進委員会 各種団体別合同研修会(第2回)  
 2024(令和6)年2月13日(火) 武庫西生涯学習プラザ1階ホール

講師に兵庫県立大学看護学部教授・高見美保さんをお招きし、「『認知症と地域社会づくり』について」という演題で講演していただきました。



前半は、南武庫之荘中学校の二人の生徒さんが「まだ未完成の社会」「手話をもっと身近に」と題した作文を朗読し、教諭の佐藤博之さんからトライヤ

るウイークや学校での取り組みが紹介されました。後半は、兵庫県立こばと聴覚特別支援学校について、学校長の平野明美さんより紹介していただきました。



講演ではまず、前提の知識として、認知症とはどのようなものかについて

の詳しい説明がありました。また認知症の人の立場から見た生活について、さらに人権との関係から、高齢者が直面している倫理的問題(能力の過小評価、自由の制限、ニーズの見過ごしなど)や、認知症の人と共生する上での倫理原則(人がなすべき行為の判断基準)についてお話しいただきました。

今年度の学校づくりアンケートでは、「子どもは友だちがいると言っている」項目で95%の保護者から肯定的な回答を得ることができました。これは、スマイルカードの取り組み以外にも本校が長年取り組んできた「仲間を大切に」する「人権教育が身を結ぶ」つある成果だと思えます。

## 視点



「ありがとうをみつげよう」

武庫南小学校では、人権テーマ「認め合い、助け合う仲間づくりをめざして」の実現に向け、日々、教育活動に取り組んでいます。

この取り組みは、前年度までは子どもたちのみで行っていましたが、今年度は教職員間でも行いました。

日頃、当たり前のように行っていることが周りから評価され、褒めてもらえると自然と笑顔になり、職場も和やかな雰囲気となりました。

今年度の学校づくりアンケートでは、「子どもは友だちがいると言っている」項目で95%の保護者から肯定的な回答を得ることができました。

これは、スマイルカードの取り組み以外にも本校が長年取り組んできた「仲間を大切に」する「人権教育が身を結ぶ」つある成果だと思えます。

子どもたちが通っている学校は、社会の縮図だと私は考えます。その学校で、子どもたちは、多様性を学び、自他共に大切にし自尊感情を高め、「生きる力」を育んでいきます。

今後も、子どもたちが頑張ろうとする気持ちに満ちた学校、地域の皆様から信頼される学校を目指し、チーム武庫南で教育活動に取り組んでまいります。

尼崎市立武庫南小学校  
 校長 大龍 正幸



大きな安心につながります。様々な行動があります。

電車の中で赤ちゃんが泣いているとします。「うるさいなあ」と思われますか？

電車の中で30代の男性が繰り返し同じ言葉を叫んでいました。その様子が、「市営地下鉄内での迷惑行為」というタイトルが付いてユーチューブに投稿されています。

「知的障がいについて知らなければ、奇異に思う人もいると思える。高齢者や身体障がい者への理解と同じように、知ることと配慮をしてもうたえたら」との父親の要望を受けた神戸市は、知的障がいや自閉症の人たちの行動を理解してもらうために、啓発ポスターを作った。

作って市内の公共交通機関や病院などに配るようになりました。

担当した市の職員の方は父親の要望を聞いた時、障がいのある我が子が電車内で声を出している周囲に必死に謝り続ける母親の姿を思い出したそうです。「どうしてこんなに謝り続けなければいけないのか」という違和感が心に残り、「保護者も心が少しでも休まれば」との思いでポスターを制作したそうです。

尼崎市では特別支援教育に関して、基本方針(あまっ子方針)を策定しています。その方針(理念)の概要は、「すべての支援の必要な子どもたちの自立と社会参加に向け、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導支援を行うとともに、誰もが多様性を理解し尊重し支えあう共生社会の担い手と



なる子どもたちの育成を目指す」というものです。そして6つの重点目標を掲げています。

- (1) 就学前・小・中・高等学校における支援体制の整備と充実
(2) 早期からの相談支援と個別に適切な就学相談の推進
(3) 学校園間および関係機関の連携(縦と横の連携)
(4) あまっ子特別支援学校の専門性の向上とセンター的機能の充実
(5) 教職員の専門性の向上

神戸市営地下鉄車両内のポスター



尼崎市の基本方針にもあるように「誰もが多様性を理解し尊重し支えあう」ことが特別支援教育の根幹です。そんな尼崎市であり、武庫地区であってほしいですね。

尼崎市立武庫小学校

校長 河合 康一

(6) 特別支援教育についての理解・啓発

前述の神戸市の例は、「(6) 特別支援教育についての理解・啓発」に当たるでしょう。

神戸市のポスターには、「経験のない出来事への対処がわからず、緊張や不安を解消するため、声を出したり、自分を落ち着かせる行動をとることがあります。」などの説明文を添えて理解を求めています。

武庫会の活動紹介

武庫会は、武庫地区の繁栄に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする団体で、123人(令和5年5月現在)の武庫地区在住の会員を擁し、武庫地域振興センターが事務局を担っています。

よりよい武庫地区を目指し、慈善事業や講演会の支援、街づくりに関して尼崎市に要望を出すなど、住民がより住みやすい武庫地区となるよう取り組んでいるところです。

具体的には、子どものための食堂や居場所を実施運営されている団体に対して、活動を支援する寄付を実施し、コロナ禍が一定の落



ち着きを見せる中、活動状況や地域の子どもたちの様子などを、運営団体のみなさんからお聞きして、子どもたちの居場所の必要性を肌身に感じ、支援を継続しようと考えています。

街づくり分野では、武庫地区の玄関口である武庫之荘駅前の南側



ロータリーにおける人の往来や、自動車・バスを含めた交通安全がより高まるように要望し、仮称武庫川周辺阪急新駅の整備に関して地域住民の意見を十分に取り入れ、計画を進めてもらいたいといった要望を市に届けるなど、武庫地域全体の利益につながるよう取り組んでいるところです。

今年度、尼崎市内6つの地区会で構成する六星会の当番地区になつており、あまがさきの魅力を市民に発信する事業として、市内で伝わっているお話を小冊子にま

とめた「あまがさきつたえばなし」を発行し、11月に歴史博物館の学芸員を招いて、尼崎の伝説をテーマとした講演会を実施させていただきました。

参加者の方からは、「地域でつたわる昔話や伝説を聞いてよかったです。」「歴史の史実も交えた話を聞いて、より深い理解と愛着につながった。」などの声をいただきました。き、事業目的を達成できたものと考えています。

こうした取り組みを重ね、会員の交流を活発にしながら、より住みやすく、地域を愛する気持ちを高めていく活動を続けていきます。

※小冊子「あまがさきつたえばなし」は、武庫東・西生涯学習プラザ等にて配布しています。

武庫地域振興センター

所長 木崎 貴則

武庫地区で頑張る団体紹介

武庫の里小学校

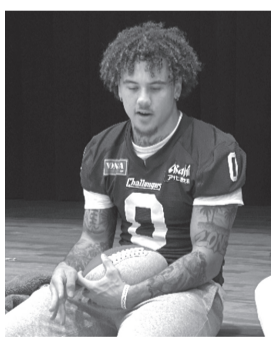
「子どもたちに夢を！挑戦を!!」

『チャレンジジャーズ』のアメフト教室

アメリカンフットボールチーム・「SEKISU」チャレンジジャーズ」は、子育てをはじめとする様々な分野で地域に根差した取組を行っています。

「チャレンジジャーズ」は、Xリーグに所属する社会人チームです。尼崎市と包括連携協定を締結し、行政や地域と協働して様々な活動を行っています。

今年度は、武庫の里小学校で月に一度「フラッグ



川口副代表



法人化し、メインスポンスアーに積水化学工業株式会社を迎え、新たな一歩を

踏み出しました。「今回、学校や育友会など、多くの方に協力をいただきながら進められ、手応えがありました。今後は地域の方々とも一緒に、まちぐるみで盛り上げていければ。」と笑顔で語る川口さん。その熱い眼差しに、地域の明るい未来を予感せずにはいられません。

武庫の里小学校 育友会

